



1636年～1869年(約230年) 伊予 西條藩を知る



第9代藩主 松平頼学 (在任期間 1832～1862年)



西条祭礼のなかでも伊曾乃神社祭礼を描いた江戸時代の絵巻は、現在2種が確認されている(ともに絵師不明)。一つは伊曾乃神社が保管している「伊曾乃大社祭禮畧圖(略図)」と、もう一つは1994年東京国立博物館で発見された「伊曾乃祭禮細見圖(細見図)」で、当時の祭礼の様子が楽車の彫刻の細部にいたるまで緻密かつ克明な描写で描かれています。描かれているのは、だんじり19台、みこし4台、船だんじり1台など。天保年間(1837～44年)ごろの作といわれる「伊曾乃大社祭禮畧圖(絵巻)」と比べみこしが1台少なく、胴板や隅障子の彫刻などがつぶさに描かれている。天保6年(1835年)の第9代西條藩主松平頼学侯の「天保の御国入り」をきっかけに、正確には天保7年(1836年)前後描かれたものと推定され、頼学侯が西条祭礼の行列が陣屋のお堀端に勢揃いした風景を、大手門から観られた豪華絢爛たる絵巻物を繰り広げたるその壮観さに印象深く帰府後にこれを絵師に描かせ、一橋徳川家(水戸藩)にその絵巻を贈ったものと思われる。

三浦安(西條藩郡奉行→紀伊へ転籍→新政府→東京府知事)の書簡の中に、松平頼学侯が水戸家に絵巻を贈ったとある。平成6年(1994)、徳川宗敬(むねよし|水戸徳川家当主篤敬(あつゆき)の次男、一橋家の養子になる。伊勢神宮大司官))寄贈の「江戸典籍」の文書の中に「細見図」絵巻を発見し西条市に紹介した。(西條松平家→水戸家→一橋徳川家→東京国立博物館)

- (参考文献) 西条市誌、西条市生活文化誌(西条市)、西條史談(西條史談会)、西條誌、
伊曾乃神社祭礼絵巻、西条例祭絵巻(愛媛新聞社)、西条祭礼絵巻(福原敏男)、
伊曾乃神社御昇格五十周年記(伊曾乃神社)、続・西條のお祭り(吉本勝)、愛媛県生涯学習センター資料、「西條誌」絵図の今むかし(伊藤茂)、伊曾乃祭礼楽車考(佐藤秀之)、
伊予西條藩の歴史研究余話(加藤正典)、

